

大崎昭彦先生 雑誌『剣道時代』・・・私の好きな言葉

乳腺腫瘍科の剣士である大崎先生が、「剣道時代」という雑誌に掲載されましたので、ご紹介します。「拙守求真」は「せっしゅきゅうしん」と読みます。深くて味のある言葉ですね。

令和元年8月1日発行（毎月1日発行）第46巻第9号通巻569号 昭和49年2月2日第三種郵便物認可

剣道時代

KENDOJIDAI

2019 AUGUST
NUMBER-569
MONTHLY KENDO MAGAZINE
定価 860円

8

特別レポート
**ヨーロッパ
剣道大会**
ヨーロッパ剣道連盟が
結成されてからことして50年。
この節目に開催された大会の模様と
剣道に寄せる選手たちの
熱い思いを報告する

taiiku-sports.co.jp

表紙&優勝インタビュー
NAOKI EIGA
栄花直輝
(全日本選手権八段優勝大会優勝)
平成最後の剣道名人戦で
栄冠を獲得したのは、
初出場初優勝、
あの栄花教士だった

特集 **剣士よ、
得意技を持って**
当代一流剣道家がはじめて公開するわが得意技の開発法と体得法

特別企画
**市民剣士の
一人稽古&トレーニング**
ひとに後れをとらぬためにも
一人稽古&トレーニングを欠かしてはならない

緊急レポート
**貧血・鉄不足では
戦えない**
筑波大学と上昌広研究室が共同チームを結成し、
剣道と貧血・鉄不足の調査を行った

強力連載
剣道の魅力
- 生涯剣道への道しるべ -
山神真一
堂本昭彦 小説中山博道
剣道歴史案内 熱田神宮
田原弘徳の面を取ってもとまらない

大金レポート
関東実業団剣道大会 / 全国矯正職員剣道大会

北海道
栄花

連載

私の好きな言葉

206

大崎昭彦

(埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科教授)



おおさき・あきひこ／昭和35年 山口県生まれ、59歳。小学校より剣道を始め、山口県立柳井高校、広島大学医学部、平成5年同大学大学院修了。広島大学医学部附属病院講師を経て平成18年埼玉医科大学乳腺腫瘍科助教授就任。現在、埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科教授、同診療部長、日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会評議員、日本乳癌検診学会理事、日本がんサポーターブケア学会理事。

拙守求真(拙きを守り真を求める)

拙守求真は、広島大学(広大) 体育会剣道部元師範大森玄伯先生の座右の銘である。不器用は不器用なりに努力を重ねるという意味だが私にピッタリの言葉かもしれない。

山口県の田舎から広大にやっこの思いで入学し小中高と続けた剣道はもういいかと思っていたが、新入生歓迎の飲み会に行っただけの運の尽きで体育会剣道部に入部が決まっていた。しかし、そのお蔭で多くの縁を頂いた。

大森先生は、広島の剣道人なら誰もが慕う人間味溢れる先生であった。ある酒の席で、先生がご自分のことを「小さい頃は体が弱くてカルシウムばかり食べさせられてな」と大きな手を見せながら「オヤジは私を医者にならせたくて玄伯とつけてな」と話された。私が「杉田玄白ですか?」とお聞きすると、「オッ、オッ、オッ」と相づちを打ちながら「玄白そのままでは恥ずかしいからちよつと人偏をつ

けてな」と。だからだろうか医者のことは何かと気にかけて頂き地元医療剣道クラブにも足を運んで下さった。

先生は広大の春合宿の稽古中に亡くなられた。OB会(剣魂会)では大森先生直筆の「拙守求真」入りの竹刀袋が作られ、毎年新入部員に手渡される。先生の志は今でも生きているのだ。さて、下手な剣道でも続けていると縁に恵まれるようである。平成十八年に広大から埼玉医大に移ると、なんと職場の目と鼻の先に旧友である藤麻氏の剣友会があり、再び剣を交えることができた。また、埼玉医大の稽古に顔を出すと、そこでは遠藤正明範士とお会いする大きな縁を頂いた。一度はお手合わせをと思い遠藤先生の正武会の稽古に参加したところ、稽古後の内輪の会に誘って頂いた。

先生の隣に席を頂き恐縮しきりであるが、ここでしか聞けないこともある。

「先生の言われる打つ前に仕事をするというのは?」遠藤先生からは「外科なら手術する前に何かするだろう、それと同じだ」と一言。なるほどと妙に納得したもの、剣道はそんなにたやすいものではない。ここでの時間は私にとっては「拙守休心?」とでも言うか、仕事を忘れて心休まる至福の時である。